

NISAで何を買う？ NISA向けファンドでは、グローバル債・日本株・アロケーション柔軟型が人気であり、5月にかけて日本株からグローバル債に人気シフトしているようだ。

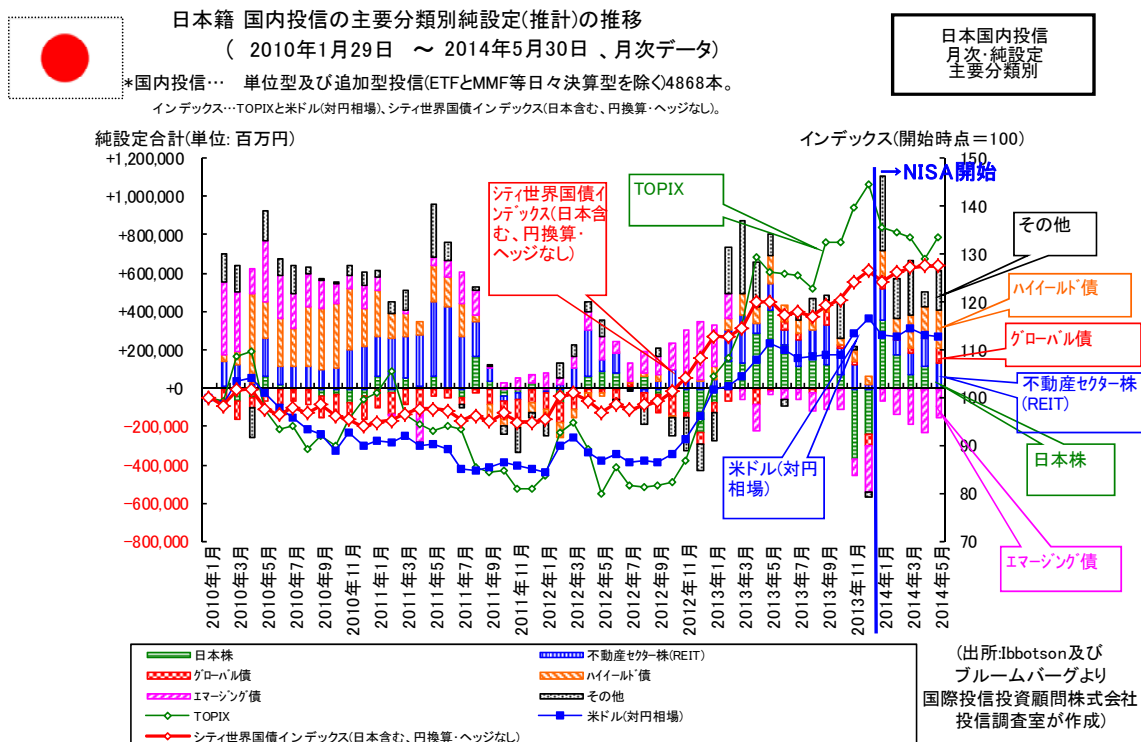
※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA 口座で安定志向が強まっている？

有力金融総合専門誌「ニッキン投信情報」(2014年6月9日付)に「調査 NISA 売れ筋ファンドと口座数(回答機関数 271)」があった(詳細は同誌参照～URLは後述[参考ホームページ])。地銀等の2014年1～3月におけるNISA口座での販売額上位3本を機関数でランキングしたもので、地銀1位は13機関で上位3本となった「米国債券(モーニングスター分類)」のファンドだ(=1位4機関+2位6機関+3位3機関)。前回(6月2日付)は同ファンドが3位で、「日本株(同分類)」が1位だったことで同誌は「地域銀行の投資家がNISA口座ではなるべくリスクを低くして安定的に利益を得られる安定志向を強めているのが良く分かる」と言っている。とても参考にはなるデータだが、地銀全体の販売額を示しておらず(都銀・信託銀等も僅か)、証券会社は対象となっていない。さらに3月末までのデータであることから、下記で5月末までのデータを使い、NISA投資家全体の動向を見る。

全体では圧倒的にハイイールド債とREITが人気で、安定志向は強まっていないようだ。

NISA投資家として、既存投資家が中心と思われる投信全体と、投資の未経験者層(新規投資家)が中心と思われるNISA向けファンドとに分けてみる(詳しくは2014年1月20日付日本版ISAの道その42参照～URLは後述[参考ホームページ])。下記グラフは「日本の単位型及びETFを除く追加型投信(MMF等日々決算型を除く)」つまり概ね既存投資家(投信全体)を示す純設定の推移である。2014年5月は+4651億円と、5カ月連続の資金純流入である。それを投資対象(主要分類)別にみると、1位はハイイールド債ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、ついで3位はグローバル株ファンド(*グラフでは「その他」に含まれる)となっている。安定志向は強まっていないようだ。



下記テーブルは2014年の年初来(1~5月)の資金純流入の大きい順を示したもので、純流入1位はハイイールド債ファンド(下記テーブルの実線)、2位は日本株ファンド、3位は不動産セクター(REIT)ファンドである。日本株ファンドは1月の大きな流入から失速しており、不動産セクター(REIT)ファンドは昨年2013年に最も流入額が大きく、今年も継続的に人気である。今年、その不動産セクター(REIT)ファンドをも上回る人気なのがハイイールド債ファンドで、5月単月でも年初来でも1位と、2010年に続くブーム再来である。先の「ニッキン投信情報」で地銀1位の「米国債券」は7位となっている(下記テーブルの破線部分)。

日本の投信の分類別資金純流出入(年初来資金純流入の大きい順)

*単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。



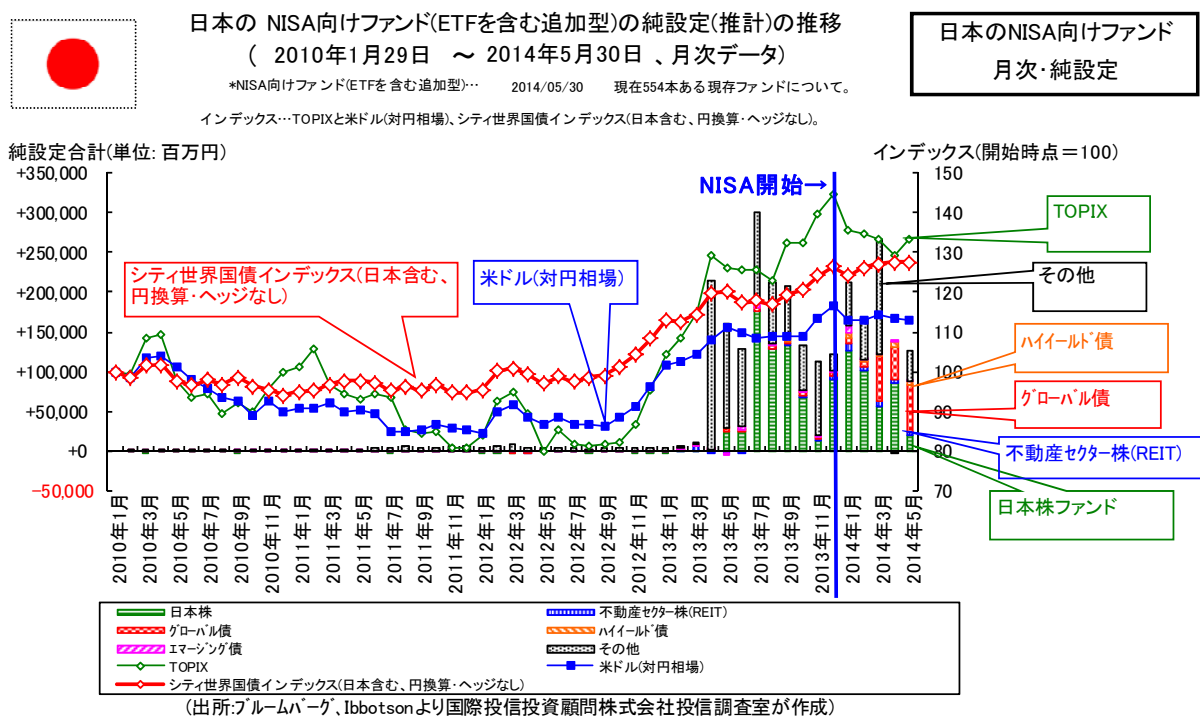
2014/05/30

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金純流入 2014年5月 (百万円)	★ 資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	ハイイールド債	+206,170	+787,233	+917,228	6,159,476
2	日本株	+7,574	+731,069	+1,038,171	8,358,253
3	不動産セクター株(REIT)	+127,163	+634,598	+1,472,298	9,099,982
4	米国大型ブレンド株	+28,014	+294,382	+715,734	1,579,799
5	グローバル株	+75,214	+259,218	+829,308	5,094,261
6	アセットアロケーション柔軟型	+33,557	+250,816	+364,666	759,621
7	米国債券	+48,374	+242,075	+654,977	1,343,312
8	日本債	+33,986	+175,123	+76,702	1,760,064
9	グローバル債	+66,413	+152,678	-96,109	7,563,217
10	欧州大型株	+21,217	+128,363	+164,518	369,013
11	アジアパンフィック債	+37,443	+104,712	-871,091	2,202,104
12	その他オルタナティブ	-5,585	+92,856	+63,155	270,235
13	アジア株(除く日本)	-2,553	+43,014	+199,678	770,771
14	アセットアロケーション慎重型	+4,312	+22,017	+17,918	338,127
15	ユーロ債	+13,087	+20,341	-40,350	127,730
16	多種オルタナティブ	+5,480	+7,600	-24,232	339,589
17	マーケット・ニュートラル	+788	+4,687	+499	21,862
18	商品・バスケット	+506	+2,745	-4,933	69,644
19	ターゲットデート2021-2045	+526	+1,465	+1,126	29,311
20	インフレ連動	-14	-100	-2,086	5,686
21	通貨	-69	-188	+527	6,469
22	アジア株	-108	-1,739	-3,570	9,566
23	ロング・ショート	-1,830	-12,153	-30,070	46,953
24	中国株	-4,830	-13,336	-213,448	259,354
25	日本マネー・プール	+10,157	-13,754	+36,092	69,868
26	アセットアロケーション標準型	-4,358	-36,712	-236,070	1,157,911
27	インド株	-13,514	-43,779	-112,259	384,679
28	CB	-10,044	-46,003	-128,009	324,644
29	エマージング株	-27,493	-141,528	-97,879	1,795,118
30	アセットアロケーション積極型	-33,050	-167,029	-291,373	2,634,085
31	エマージング債	-151,478	-761,519	-604,657	5,790,993
	全31分類の合計	+465,054	+2,717,152	+3,796,462	58,741,697

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

NISA 向けファンドでは、グローバル債・日本株・アロケーション柔軟型が人気であり、5月にかけて日本株からグローバル債に人気がシフトしているようだ。

次に、NISA 向けと思われる投信について純設定の推移を見る。2014年5月の純設定額は+1265億円と、NISA が始まった2014年1月から最も小さい資金純流入となっている(*NISA 向けファンド…後述※欄参照)。次いで純設定を投資対象(主要分類)別にみると、1位はグローバル債ファンド、2位は米国債ファンド(*グラフでは「その他」に含まれる)、3位は日本株ファンド、4位がアセットアロケーション柔軟型となっている。年初から見て、日本株からグローバル債に人気がシフトしている感もある。先の既存投資家(投信全体)と同様に日本株の失速が示されるほか、既存投資家(投信全体)では人気のハイイールド債ファンドや不動産セクター(REIT)ファンドは、それほどの人気とはなっていないようだ。



※「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2014年5月30日時点で554本となった。

次頁テーブルは2014年の年初来(1~5月)の資金純流入の大きい順を示したもので、純流入1位は日本株ファンド、2位はグローバル債ファンド、3位はアセットアロケーション柔軟型ファンドである。ハイイールド債ファンドは8位で(次頁テーブルの実線)、先の「ニッキン投信情報」で地銀1位の「米国債券」は6位となっている(同、破線部分)。

日本のNISA向けファンドの分類別資金純流出入(年初来資金純流入の大きい順)

*NISA向けファンド・・・ETFを含む追加型。

2014/05/30

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金 純流入 2014年5月 (百万円)	資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金 純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	日本株	+21,793	+397,105	+672,619	1,106,887
2	グローバル債	+58,784	+167,594	+26,171	206,895
3	アセットアロケーション柔軟型	+19,148	+161,443	+100,593	271,112
4	米国大型ブレンド株	-1,255	+87,197	+213,936	333,512
5	欧州大型株	+14,405	+61,645	+83,957	159,434
6	米国債券	+24,435	+37,490	+18,289	56,097
7	不動産セクター株(REIT)	+3,757	+27,915	+15,296	67,492
8	ハイイールド債	+4,965	+25,084	+8,232	33,541
9	日本債	+1,973	+15,194	+10,094	31,378
10	中国株	+39	+11,542	+0	10,794
11	エマージング債	+268	+11,089	+20,333	36,550
12	アジアハイファイック債	+1,941	+8,809	+216	9,114
13	ユーロ債	-97	+2,231	+0	2,227
14	CB	+322	+2,029	+14,294	16,730
15	その他オルタナティブ	+183	+1,861	+946	2,300
16	アセットアロケーション標準型	+138	+1,350	+1,253	2,700
17	アジア株(除く日本)	+12	+215	+19	251
18	アセットアロケーション慎重型	+14	+107	+22	131
19	商品・バスケット	+9	+35	+2	37
20	日本マネー・プール	-59	-449	+874	425
21	エマージング株	-1,145	-1,604	+35,323	58,225
22	アセットアロケーション積極型	-1,384	-3,484	+74,669	73,172
23	多種オルタナティブ	-872	-8,980	-25,103	29,965
24	グローバル株	-20,815	-90,828	+343,041	336,479
	全24分類の合計	+126,559	+914,590	+1,615,076	2,845,448

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ただ、グローバル債や「米国債券」の純設定額の大きさは、特定の新規設定によるものが半分超を占めている。仮にこうした新しく設定されたファンドを除くならば、NISA向けファンドの上位にはグローバル債と日本株ファンドとアセットアロケーション柔軟型が各々同程度の純設定額で並ぶこととなる。

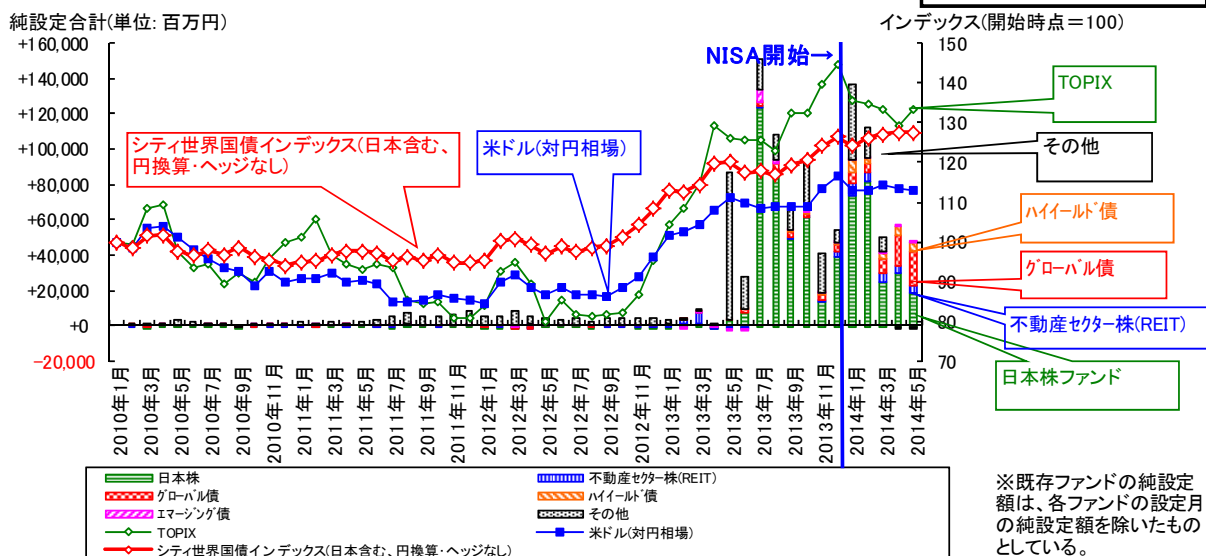


日本のNISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移
(2010年1月29日～2014年5月30日、月次データ)

*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/05/30 現在526本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
月次・純設定
(既存ファンド)



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※既存ファンドの純設定額は、各ファンドの設定月の純設定額を除いたものとしている。

尚、参考までに他の調査結果も見ておく。金融リテラシー研究所「金融リテラシー・マーケティング」vol.23 2014年春号には「NISA 個人投資家 1,000 人調査(3月実施)」があり、それによると、NISA 口座で買われた投資信託の分類で、全体では1位国内株式 22.1%、2位国際 REIT 20.1%、3位国際債券 16.7%(URLは後述[参考ホームページ])。地銀・第二地銀では1位国際債券 28.3%、2位国際株式 18.3%、3位国際 REIT 16.7%、メガバンクでは1位国際債券 37.5%、2位国内株式 18.8%、3位国際 REIT 12.5%、3位バランス 12.5%、そして、対面証券では1位国際債券型 22.5%、2位国内株式 18.3%、3位バランス型 15.5%とあった。金融財政事情研究会・金融証券調査室による、大手金融機関の2014年3月のNISA買付金額上位によれば、ハイールド債ファンド、次いでREITファンドなどがあり、このあたりは前述した既存投資家(投信全体)の傾向と一致しているようである。そして、大手証券会社の最新NISA売れ筋商品を見ておくと、5月は引き続き、毎月分配型のREITファンド(一部通貨選択型)と日本株インデックスファンド、一部でアセットアロケーションファンド積極型への人気が見られる(URLは後述[参考ホームページ])。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたい。

【参考ホームページ】

2014年6月9日付ニッキン投信情報「NISA 売れ筋ファンド(2014年1~3月)と口座数(2014年3月末)」…「<http://www.nikken.co.jp/toushin/>」、2014年1月20日付日本版ISAの道その42「NISAで何をかう? 2014年最初の週は新規投資家(NISA向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドとREITファンドが中心のようである。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140120.pdf>」、金融リテラシー研究所…「<http://edit.co.jp/IFL/index.html>」、2014年6月11日付け日本経済新聞朝刊「ボーナス 投資意欲底堅く」…「<http://www.nikkei.com/>」、金融財政事情研究会「<http://www.kinzai.or.jp/>」、野村証券(野村ネット&コール)のNISA口座投資信託 買付件数ランキング…「<http://www.nomura.co.jp/nisa/nisaranking/index.html>」、大和証券のNISA口座買付金額ランキング…「<http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html>」、SBI証券のNISA口座ランキング…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、楽天証券のNISAランキング…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」、カブドットコム証券のNISA口座ETF買付ランキング…「http://kabu.com/info/nisa/ranking_stock.asp」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクの開発したものです。